

City Life NEWS

全国で注目される施策や課題は、地域で暮らす私たちにどう影響するのか?身近に起きた出来事やトレンドなど、幅広い分野のニュースを紹介していきます。ネットでもさまざまなニュースを紹介しています。



シティライフNEWS で検索

1964年の東京五輪で走れなかった聖火ランナー 「今度こそ走りたい」 72歳の再挑戦

いよいよ2020年にせまった東京オリンピック・パラリンピック。発祥の地ギリシャの太陽光から採火された炎を、開催国日本での開会式へとつなぐ聖火リレーが行われる。コンセプトは「Hope Lights Our Way / 希望の道を、つなごう」。2020年3月26日に福島県から始まり、121日間をかけて日本全国47都道府県を巡る。

今から55年前、1964年東京五輪の聖火リレーで、兵庫県も5日間に渡りランナーが聖火をつなぐ予定だった。森純也さん(72)は当時甲陽学院高校の陸上部主将。800m・1500mを走る中・長距離の選手だった。学校推薦でランナーに選ばれた同校5人の仲間と、夙川橋から西宮市役所までを走る予定だったが、不運にもその日、台風通過のために兵庫県庁-大阪府庁間のリレーが中止となり、聖火は車両により運搬された。「それはもう残念で、本当に走れないのかと当日現地を確認に行っただけ。だが、台風では仕方がないのかなと納得もしていた」

後日西宮市で、廣田神社から出発す



1964年兵庫県庁で聖火を受けた立杭の聖火台。翌日の中止で聖火を送りだすことはなかった。

る模擬聖火リレーが行われ、森さんも西宮市民グランドを走った。しかし以降、4年毎に開催される五輪の話題に触れるたび、「やはり走りたかった」という想いはあふれた。

「56年目のファーストランの会」を発足

2013年、東京での五輪開催が決まったことを受け、同じく悔しい思いをした甲陽の仲間と共に動き始める。学校ごとに選抜されていた学生ランナーや社会人など約700名を新聞や同窓会名簿を頼りに探し、2017年7月に「56年目のファーストランの会」を発足させた。現在判明しているメンバーは240名にものぼる。

現在も該当者を探す活動を進める一方で、3~4月に1度ラン&ウォークやゲストを招いた講演会などのイベントを行っている。

東京2020聖火リレーで兵庫県に聖火が到着するのは28番目。5/24(日)~25(月)の2日間で県内14市を駆け抜ける。

選考の応募がはじまる

ルートの西宮市が含まれると知った時、森さんは「嬉しかったし、できればそこを走りたい」と期待が高まったそう。プレゼンティングパートナー4社からのランナー応募は既に始まっており、7/1(月)からは各都道府県実行委員会を通しての応募も始まる。森さんは「我々は次こそ走りたい。また(55年前、中止で涙を飲んだのは兵庫-大阪区間のみなので)“幻の聖火ランナーが遂に”というドラマは我々にしかない。選ばれればうれしい」と話した。選考結果は12月以降に発表される予定。

【1日目】 | 5月24日[日]

豊岡市→朝来市→ 宍粟市→ 加東市→ 小野市→ 加古川市→ 姫路市



【2日目】 | 5月25日[月]

神戸市→ 明石市→ 南あわじ市→ 西宮市→ 尼崎市→ 三田市→ 丹波篠山市

東京2020聖火リレーでの兵庫県のみどころは、朝来市の「日本のマチュピチュ」竹田城跡や阪神・淡路大震災から20年目の節目に作られた神戸市の「BE KOBE」のモニュメント、南あわじ市の国指定の名勝「慶野松原」、西宮市では甲子園球場、尼崎市は尼崎城など。離島である淡路島へは、ギリシャの採火時から用意されているもう一つの聖火「子どもの火」をあらかじめランタンで運搬しておき、活用する可能性もある。
※ルート概要、実施市区町村とその順番、セレブレーション会場など(特に実施市区町村の順番)については、今後変更となる可能性あり。

みなさんはどう思いますか? 小中学校へのスマホの持ち込み

今年の2月19日に文部科学省が小中学校へのスマホ持ち込み「原則禁止」を見直すことを明らかにした。大阪府教育委員会においては「小中学校における携帯電話の取扱いに関するガイドライン」が発表されている。これは登下校中に保護者と連絡をとる手段として、携帯電話(スマホ含む)を持つことができるというもの。地震などの災害や予期せぬ緊急事態時に、安否や所在を確認する手段として、携帯電話は役に立つ。だが、学校への携帯電話の持ち込みが禁止ならば、登下校中に持つことができない。

そのルールを一部解除するという内容だ。これは、学校で携帯電話が使えるようになるということではない。大阪府のガイドラインでも、学校内での使用は引き続き禁止で、所持する場合は電源は切り、カバンに保管すると定められている。兵庫県教育委員会としては、文科省の方針が出たのち、検討に入るとしている。

携帯電話(スマホ)の持ち込みが許可されれば、こっそり電源を入れての使用や、盗難などのトラブルももちろん考えられる。LINEなどの

便利な反面、SNSなどを通じて見知らぬ人とつながる危険性もある。今からスマホを持たせる家庭でも親子でしっかりと話し合う必要がある。



SNS上でのいじめが深刻化していることも指摘されている。学校側の負担が増えれば、それは結果として生徒たちの学びの環境を悪くすることにもなりかねない。スマホゲームを含むゲーム依存症やスマホ画面の見すぎによる急性斜視など、急速なスマホの普及による弊害も報告されている。学校への携帯電話の持ち込みが解除されても、メリットとデメリットを考えて、慎重に判断する必要があるだろう。家庭での使い方は、未成年に有害なサイト

やアプリを制御する「フィルタリングサービス」の設定や、使用時間を決めて夜間は保護者に預けるなど、保護者と子どもと一緒に話し合っ決めて決めることが大切だ。

大阪府のガイドラインではGPS機能や、犯罪に巻き込まれそうな場合の連絡手段としても携帯電話が想定されている。登下校中の安全のために地域で出来ることは何かなど、みんなで考えていく課題となりそうだ。